

商工会議所LOBO(早期景気観測)

－ 2011年2月調査結果 －

 **日本商工会議所**
The Japan Chamber of Commerce and Industry
2011年2月28日

業況DIは、わずかに悪化。原材料価格の高騰が響く

<結果のポイント>

- ◇ 2月の全産業合計の業況DIは、▲40.1（前月比▲1.4ポイント）と、3カ月ぶりにマイナス40台となった。原材料価格の高騰に加え、企業間競争の激化、消費者の低価格志向や経済対策の縮小に伴う売上の悪化、円高の長期化などが経営環境に悪影響を及ぼしている。
- ◇ 業種別では、建設業は、公共・民間工事とも依然として低調。製造業は、一部の企業で新興国向けの輸出が好調なものの、国内需要の低迷や取引先企業の海外移転により、総じて受注は減少傾向。小売業は、来客数に回復の動きがあるものの、デフレによる売上減少や購入単価の低迷が続いている。
- ◇ 項目別では、仕入単価DIは、原材料および食料価格の高騰を背景に、前月比▲7.7ポイントと大幅に悪化した。また、価格競争や取引先からの要請による販売価格の引下げ等から、売上が低迷しているとの声も多く、売上DIは、すべての業種でマイナス幅が拡大した。
- ◇ 先行きについては、先行き見通しDIは▲34.3（前月比+4.3ポイント）と2カ月連続でマイナス幅が縮小した。新興国向け輸出・生産の拡大に加え、春先需要などこれまで低迷していた消費に動きがみられることから、売上回復への期待が寄せられている。一方で、原油をはじめ原材料価格は今後一段の上昇が見込まれており、先行きへの懸念を訴える声も多い。

調査要領

○調査期間 2011年2月15日～21日

○調査対象 全国の408商工会議所が2689業種組合などにヒアリング

（内訳）建設業：395 製造業：637 卸売業：248 小売業：747 サービス業：662

○調査項目 今月の業況・売上・採算などについての状況および業界として直面する問題等
※DI値（景況判断指数）について

DI値は、業況・売上・採算などの各項目についての、判断の状況を表す。ゼロを基準として、プラスの値で景気の上向き傾向を表す回答の割合が多いことを示し、マイナスの値で景気の下向き傾向を表す回答の割合が多いことを示す。したがって、売上高などの実数値の上昇率を示すものではなく、強気・弱気などの景況感の相対的な広がりの意味する。

DI = (増加・好転などの回答割合) - (減少・悪化などの回答割合)
業況・採算：(好転) - (悪化) 売上：(増加) - (減少)

＜産業別の特徴的な動き＞

産業別にみると、業況DIのマイナス幅は、建設業、製造業、小売業、サービス業は拡大、卸売業は低水準で推移した。

輸入原材料・製品（商品）を取扱っている企業に「円高による仕入価格の状況」について聞いたところ、「円高メリット以上に輸入原材料・製品（商品）の価格が高騰している」との回答が37.1%と、2カ月連続で増加。

また、「仕入価格の上昇を受けての価格転嫁の状況」については、「販売価格に転嫁できていない」もしくは「販売価格への転嫁は小幅にとどまっている」との回答が95%以上と厳しい状況。

各業種から寄せられた特徴的なコメントは以下のとおり。

DI値のマイナス幅(最近6カ月の傾向) ⇆ 縮小傾向 ⇆ ほぼ横ばい ⇆ 拡大傾向

【建設業】

業況	売上	採算	資金繰り	仕入単価	従業員
⇆	⇆	⇆	⇆	⇆	⇆

- ・「公共・民間工事とも受注の増加が期待できず、今後も厳しい経営環境が続く見通し」（一般土木建築工事業）
- ・「鋼材の仕入価格が上昇している一方、受注は低価格の案件が中心のため、収益確保の見通しが立たない」（建設工事業）
- ・「小規模の案件にも大手住宅販売業者が参入している影響で、地元業者の売上が悪化し、廃業が目立っている」（板金・金物工事業）

【製造業】

業況	売上	採算	資金繰り	仕入単価	従業員
⇆	⇆	⇆	⇆	⇆	⇆

- ・「円高の影響で取引先からのコストダウン要請があり、厳しい経営状況」（自動車・同附属品製造業）
- ・「中国をはじめアジア諸国の需要が旺盛なことから、海外からの材料調達が困難になっている」（建設・建築用金属製品製造業）
- ・「前年の猛暑や天候不順の影響で野菜の収穫量が減少し、仕入価格が上昇」（その他の食料品製造業）

【卸売業】

業況	売上	採算	資金繰り	仕入単価	従業員
⇆	⇆	⇆	⇆	⇆	⇆

- ・「ガソリン価格の上昇により燃料費負担が大きく、経営は厳しい」（各種商品卸売業）
- ・「大雪の影響で商品の仕入の遅れや物流コストの上昇により、採算が悪化」（各種商品卸売業）
- ・「家電エコポイントの縮小により、12月以降売上が激減」（電気機械器具卸売業）

【小売業】

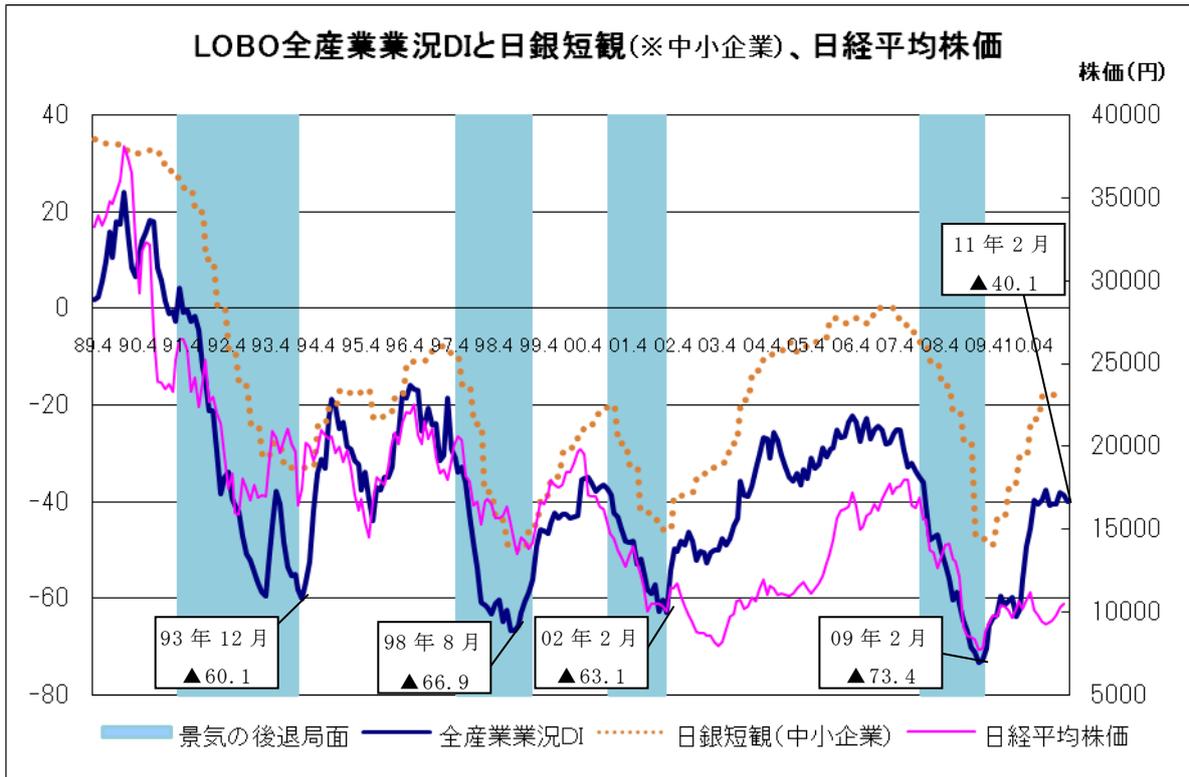
業況	売上	採算	資金繰り	仕入単価	従業員
⇆	⇆	⇆	⇆	⇆	⇆

- ・「一部の新品や話題商品の売上は好調なもの、消費は依然として冷え込んでいる」（総合スーパー）
- ・「気温の低下や積雪により冬物商品の売上が好調も、春物商品は売上が伸び悩んでいる」（総合スーパー）
- ・「購入単価が若干回復傾向にあるため、今後の売上改善を期待」（商店街）

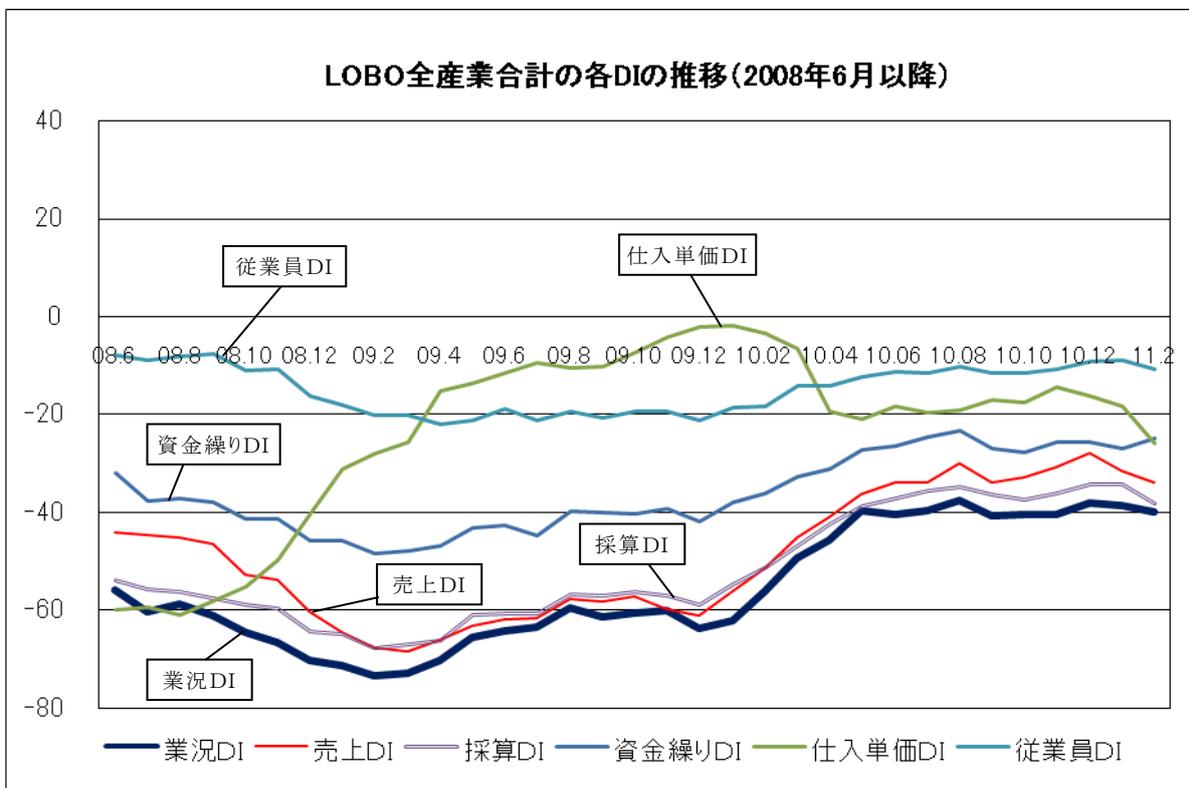
【サービス業】

業況	売上	採算	資金繰り	仕入単価	従業員
⇆	⇆	⇆	⇆	⇆	⇆

- ・「来客数の減少に加え、食材の仕入価格、ガス料金の上昇により経営環境が厳しく、廃業する店舗が相次いでいる」（その他の一般飲食店）
- ・「消費者の低価格志向が強くなり、販売単価が伸び悩んでいる」（食堂、レストラン）
- ・「3月から春の観光シーズンが始まるので、宿泊客数の増加を期待」（旅館）



※短観(中小企業)：資本金2千万円以上の企業が調査対象



【業況についての判断】

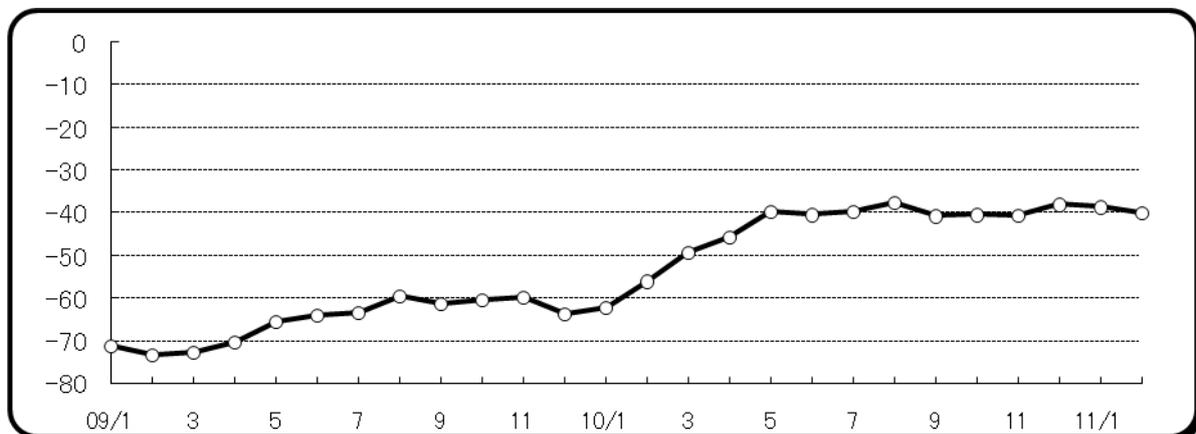
- 2月の景況をみると、全産業合計の業況DI（前年同月比ベース、以下同じ）は▲40.1（前月比-1.4ポイント）となり、マイナス幅は2カ月連続で拡大した。
- 産業別にみると、卸売業はマイナス幅が縮小したものの、他の4業種は拡大した。
- 向こう3カ月（3～5月）の先行き見通しについては、全産業合計の業況DI（今月比ベース）は▲34.3と、前月（▲38.6）と比べ+4.3ポイントとなり、マイナス幅は2カ月連続で縮小した。
- 産業別に先行き見通しをみると、前月と比べ、建設業、卸売業、小売業、サービス業はマイナス幅が縮小、製造業はほぼ横ばいとなった。

業況DI(前年同月比)の推移

	10年 9月	10月	11月	12月	11年 1月	2月	先行き見通し 3～5月
全産業	▲40.8	▲40.5	▲40.6	▲38.1	▲38.7	▲40.1	▲34.3 (▲38.6/▲47.1)
建設	▲54.4	▲54.4	▲51.5	▲50.7	▲48.7	▲50.9	▲47.2 (▲50.9/▲63.5)
製造	▲26.0	▲23.3	▲27.7	▲27.1	▲26.8	▲29.8	▲33.3 (▲34.2/▲39.7)
卸売	▲36.4	▲34.6	▲41.3	▲26.3	▲36.4	▲33.8	▲23.1 (▲37.8/▲39.3)
小売	▲46.1	▲45.6	▲41.8	▲39.1	▲37.4	▲38.7	▲32.4 (▲35.9/▲51.5)
サービス	▲42.9	▲46.7	▲45.3	▲45.0	▲46.8	▲48.0	▲33.3 (▲38.1/▲42.5)

※「先行き見通し」は当月に比した向こう3カ月の先行き見通しDI
 () 内左側(網かけ)は前月(1月)の先行き見通しDI
 () 内右側は昨年2月の先行き見通しDI

《業況DI(全産業・前年同月比)の推移》



【売上（受注・出荷）の状況についての判断】

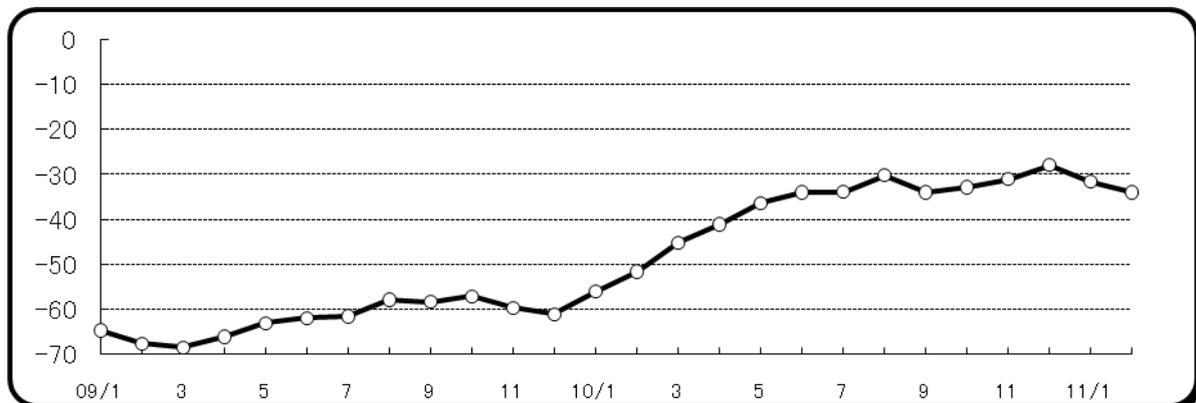
- 売上面では、全産業合計の売上D Iは▲34.0（前月比-2.4ポイント）となり、マイナス幅は2カ月連続で拡大した。産業別にみても、全ての業種でマイナス幅が拡大した。
- 向こう3カ月（3～5月）の先行き見通しについては、全産業合計の売上D I（今月比ベース）は▲26.0と、前月（▲33.8）と比べ+7.8ポイントとなり、マイナス幅は2カ月連続で縮小した。
- 産業別に先行き見通しをみても、前月と比べ、全ての業種でマイナス幅が縮小した。

売上（受注・出荷）D I（前年同月比）の推移

	10年 9月	10月	11月	12月	11年 1月	2月	先行き見通し 3～5月
全産業	▲34.1	▲32.9	▲31.0	▲28.0	▲31.6	▲34.0	▲26.0 (▲33.8/▲42.2)
建設	▲47.7	▲46.3	▲43.0	▲46.0	▲46.1	▲48.6	▲40.9 (▲49.6/▲60.1)
製造	▲13.3	▲16.3	▲16.3	▲9.6	▲15.8	▲17.1	▲20.5 (▲24.8/▲33.5)
卸売	▲34.3	▲26.3	▲31.5	▲18.0	▲24.5	▲30.8	▲13.8 (▲31.5/▲33.6)
小売	▲42.2	▲36.5	▲31.3	▲30.8	▲31.5	▲34.4	▲27.5 (▲32.4/▲50.7)
サービス	▲37.3	▲40.5	▲38.1	▲36.4	▲41.5	▲43.0	▲25.0 (▲35.1/▲33.8)

※「先行き見通し」は当月に比した向こう3カ月の先行き見通しD I
 () 内左側（網かけ）は前月（1月）の先行き見通しD I
 () 内右側は昨年2月の先行き見通しD I

《売上（受注・出荷）D I（全産業・前年同月比）の推移》



【採算の状況についての判断】

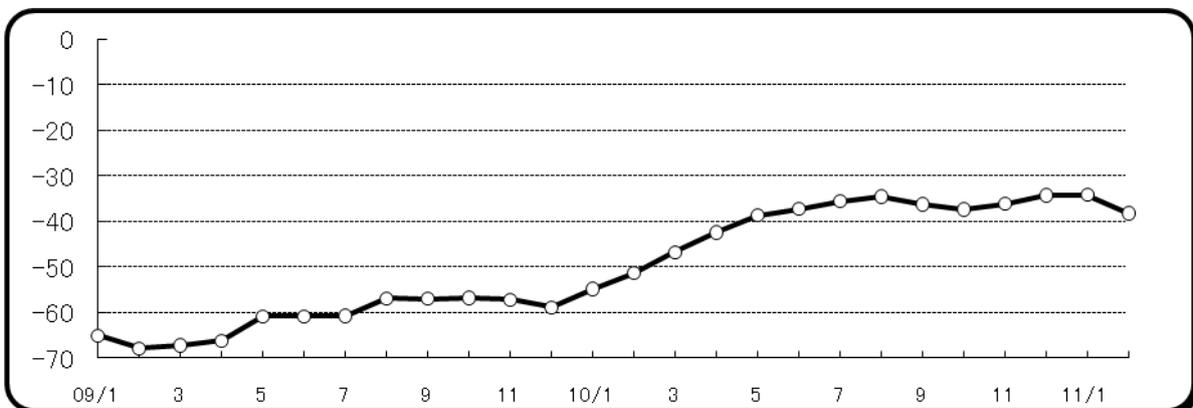
- 採算面では、全産業合計の採算D Iは▲38.4（前月比-4.0ポイント）となり、マイナス幅は4カ月ぶりに拡大した。産業別にみると、サービス業はほぼ横ばいとなったものの、他の4業種はマイナス幅が拡大した。
- 向こう3カ月（3～5月）の先行き見通しについては、全産業合計の採算D I（今月比ベース）は▲31.0と、前月（▲35.3）と比べ+4.3ポイントとなり、マイナス幅は2カ月連続で縮小した。
- 産業別に先行き見通しをみても、前月と比べ、全ての業種でマイナス幅が縮小した。

採算D I（前年同月比）の推移

	10年 9月	10月	11月	12月	11年 1月	2月	先行き見通し 3～5月
全産業	▲36.4	▲37.5	▲36.3	▲34.5	▲34.4	▲38.4	▲31.0 (▲35.3/▲43.9)
建設	▲48.9	▲51.9	▲55.1	▲52.3	▲46.5	▲52.8	▲45.4 (▲47.0/▲59.9)
製造	▲24.7	▲24.7	▲25.8	▲25.4	▲26.5	▲31.3	▲32.1 (▲34.0/▲39.9)
卸売	▲30.1	▲26.3	▲29.4	▲18.8	▲22.4	▲26.2	▲17.8 (▲29.4/▲34.5)
小売	▲37.4	▲37.9	▲33.8	▲33.0	▲27.3	▲33.1	▲27.9 (▲29.5/▲47.1)
サービス	▲41.5	▲46.1	▲40.7	▲40.7	▲47.1	▲47.0	▲28.7 (▲37.6/▲37.7)

※「先行き見通し」は当月に比した向こう3カ月の先行き見通しD I
 () 内左側（網かけ）は前月（1月）の先行き見通しD I
 () 内右側は昨年2月の先行き見通しD I

《採算D I（全産業・前年同月比）の推移》



(参考)

資金繰りD I (前年同月比) の推移

	10年 9月	10月	11月	12月	11年 1月	2月	先行き見通し 3～5月
全産業	▲26.8	▲27.8	▲25.5	▲25.7	▲27.0	▲24.7	▲25.2 (▲29.3/▲32.2)
建設	▲41.2	▲40.3	▲35.5	▲41.7	▲40.4	▲38.1	▲39.4 (▲43.8/▲42.7)
製造	▲18.2	▲22.6	▲20.6	▲20.1	▲21.4	▲20.4	▲26.2 (▲30.3/▲34.1)
卸売	▲22.4	▲17.5	▲21.6	▲12.7	▲18.8	▲8.1	▲13.0 (▲20.3/▲24.2)
小売	▲27.5	▲28.9	▲24.0	▲24.9	▲21.6	▲22.0	▲21.3 (▲20.3/▲30.6)
サービス	▲26.8	▲28.2	▲27.5	▲27.3	▲32.7	▲29.6	▲23.4 (▲31.5/▲28.2)

$$D I = (\text{好転の回答割合}) - (\text{悪化の回答割合})$$

【前年同月比D I】全産業合計の資金繰りD Iは▲24.7となり、マイナス幅は3カ月ぶりに縮小した。産業別にみると、小売業はほぼ横ばいとなったものの、他の4業種はマイナス幅が縮小した。

【先行き見通しD I】全産業合計の先行き見通しをみると、マイナス幅は前月から縮小する見通し。産業別にみると、小売業はマイナス幅が拡大するものの、他の4業種は縮小する見通し。

仕入単価D I (前年同月比) の推移

	10年 9月	10月	11月	12月	11年 1月	2月	先行き見通し 3～5月
全産業	▲17.2	▲17.6	▲14.5	▲16.3	▲18.3	▲26.0	▲24.4 (▲19.8/▲6.9)
建設	▲21.3	▲21.1	▲19.1	▲16.0	▲22.7	▲30.6	▲30.1 (▲25.3/▲11.8)
製造	▲22.6	▲21.2	▲21.4	▲20.8	▲24.5	▲32.8	▲31.4 (▲25.9/▲13.5)
卸売	▲21.7	▲16.5	▲14.0	▲15.0	▲14.0	▲24.6	▲19.2 (▲14.0/2.2)
小売	▲7.3	▲4.7	▲3.3	▲9.4	▲10.8	▲13.6	▲16.1 (▲13.3/▲0.3)
サービス	▲18.1	▲27.0	▲16.9	▲20.2	▲18.6	▲30.0	▲24.5 (▲19.0/▲7.6)

$$D I = (\text{下落の回答割合}) - (\text{上昇の回答割合})$$

【前年同月比D I】全産業合計の仕入単価D Iは▲26.0となり、マイナス幅は3カ月連続で拡大した。産業別にみても、全ての業種でマイナス幅が拡大した。

【先行き見通しD I】全産業合計の先行き見通しをみると、前月と比べ、全ての業種で上昇感は強まる見通し。

従業員D I（前年同月比）の推移

	10年 9月	10月	11月	12月	11年 1月	2月	先行き見通し 3～5月
全産業	▲11.5	▲11.6	▲10.6	▲9.2	▲9.0	▲10.8	▲10.3 (▲11.1/▲16.5)
建設	▲25.2	▲22.5	▲23.8	▲23.6	▲21.9	▲23.0	▲23.0 (▲23.7/▲29.4)
製造	▲9.2	▲12.8	▲12.0	▲8.7	▲10.1	▲11.3	▲11.3 (▲13.1/▲22.3)
卸売	▲13.4	▲12.0	▲14.7	▲9.1	▲10.5	▲10.0	▲9.2 (▲11.2/▲16.4)
小売	▲7.3	▲5.7	▲5.3	▲4.4	▲4.0	▲6.9	▲6.7 (▲5.1/▲13.0)
サービス	▲8.4	▲10.1	▲4.9	▲5.8	▲4.2	▲6.7	▲5.2 (▲7.0/▲5.7)

D I = (不足の回答割合) - (過剰の回答割合)

【前年同月比D I】全産業合計の従業員D Iは▲10.8となり、マイナス幅は4カ月ぶりに拡大した。産業別にみると、卸売業はほぼ横ばいとなったものの、他の4業種は過剰感が強まった。

【先行き見通しD I】全産業合計の先行き見通しをみると、前月からほぼ横ばいとなる見通し。産業別にみると、小売業は過剰感が強まる見通しであるものの、建設業はほぼ横ばい、他の3業種は過剰感が弱まる見通し。

※「先行き見通し」は当月に比べた向こう3カ月の先行き見通しD I

() 内左側(網かけ)は前月(1月)の先行き見通しD I

() 内右側は昨年2月の先行き見通しD I

【2011年2月の景気キーワード】

○原材料価格の高騰

原材料・食料価格の高騰を背景に、仕入価格が上昇し、幅広い業種から採算の悪化を訴える声が寄せられている。

- ・「燃料価格が上昇し採算が悪化している。経費節減は限界に達しており、経営状況が厳しい」(瀬戸・陶磁器・同関連製品製造業)
- ・「異常気象による生産の減少に加え、新興国の需要増等により、主力商品である小麦、砂糖、食用油の価格が高騰している」(長崎・農畜産・水産物卸売業)
- ・「野菜、肉の仕入価格の高止まりに加え、今月から食用油の仕入価格も上昇し、採算が厳しい」(今治・旅館)

○進まぬ価格転嫁

仕入価格の上昇に対し、売上の減少が懸念されることから、販売価格への転嫁が難しく、収益に悪影響が及んでいるとの声が多い。

- ・「オーストラリアにおける洪水の影響で、石炭や鉄鉱石の仕入価格が上昇する一方、取引先に対して価格転嫁できておらず、採算が悪化」(静岡・金属加工機械製造業)
- ・「取引先からの加工賃の値下げ要求が厳しい。仕入価格上昇分の製品への値上げができず、収益が圧迫されている」(東京・ブリキ缶等製品製造業)
- ・「原材料の仕入価格が高止まりしているが、販売価格に転嫁できず経営状況が厳しい」(銚子・その他の一般飲食店)

○厳冬の影響

今冬の大雪や気温の低下により、除雪作業や冬物商品の売上の増加につながった一方、来客数の減少など、悪影響を訴える声も寄せられた。

- ・「大雪により除雪の依頼が多くなり、一時的に受注が増加」(盛岡・一般土木建築工事業)
- ・「寒い日が続いたことから、スタッドレスタイヤ等季節商品の売上が好調だった」(三島・その他の小売業)
- ・「2月は天候不順に加え、寒い日が続いたことから、来客数が減少し、この1年間で売上・利益が最も落ち込んだ」(京都・商店街)

【景気キーワードの推移】

年 月	景気キーワード		
10年9月	限定的な猛暑効果	円高の悪影響	エコカー補助金終了による需要減退
10月	厳しい雇用情勢	円高の悪影響	消費マインドのさらなる冷え込み
11月	厳しい雇用情勢	円高の悪影響	年末に向けた売上減少の懸念
12月	仕入価格の上昇・高止まり 原材料価格の高騰	円高の悪影響	先行き不安の拡大
11年1月	原材料価格の高騰	円高の悪影響	経済対策で住宅産業に動き
2月		進まぬ価格転嫁	厳冬の影響

※景気キーワードは、調査対象組合の各月におけるトピック・関心事項などに関する自由回答をまとめたもの。本文中の()内は、(地名・業種)を示す。

【ブロック別概況】

- ブロック別の業況D I（前年同月比ベース）は、東海、九州でマイナス幅が縮小、北海道、北陸信越はほぼ横ばいとなったものの、他の5地域は拡大した。
- マイナス幅が大幅に縮小した東海は、製造業を中心に一部で受注の回復がみられるが、原材料価格の高騰など先行きを不安視する声も多い。
- ブロック別の向こう3カ月（3～5月）の業況の先行き見通しは、前月と比べ、北陸信越、近畿でマイナス幅が拡大、北海道、中国でほぼ横ばいとなったものの、他の5地域では縮小した。

ブロック別・全産業業況D I（前年同月比）の推移

	10年 9月	10月	11月	12月	11年 1月	2月	先行き見通し 3～5月
全 国	▲40.8	▲40.5	▲40.6	▲38.1	▲38.7	▲40.1	▲34.3 (▲38.6/▲47.1)
北 海 道	▲45.8	▲37.6	▲42.9	▲49.0	▲48.9	▲48.3	▲36.4 (▲36.8/▲37.5)
東 北	▲42.5	▲35.7	▲35.8	▲25.5	▲34.2	▲40.6	▲34.4 (▲38.7/▲51.7)
北陸信越	▲39.0	▲38.5	▲37.0	▲32.3	▲34.7	▲35.1	▲35.7 (▲34.3/▲50.3)
関 東	▲36.6	▲37.9	▲37.2	▲36.2	▲34.5	▲38.7	▲30.5 (▲39.0/▲47.8)
東 海	▲36.5	▲40.7	▲38.3	▲29.0	▲35.1	▲23.7	▲26.7 (▲33.8/▲44.0)
近 畿	▲41.8	▲39.7	▲44.1	▲44.1	▲43.4	▲46.3	▲41.5 (▲39.7/▲44.3)
中 国	▲46.5	▲47.8	▲50.0	▲50.5	▲44.2	▲45.7	▲40.4 (▲40.2/▲50.9)
四 国	▲42.1	▲35.0	▲40.3	▲38.2	▲42.3	▲46.3	▲31.7 (▲37.7/▲41.1)
九 州	▲47.3	▲55.3	▲47.1	▲45.2	▲42.7	▲41.7	▲36.8 (▲47.3/▲52.7)

※「先行き見通し」は当月に比した向こう3カ月の先行き見通しD I
 () 内左側（網かけ）は前月（1月）の先行き見通しD I
 () 内右側は昨年2月の先行き見通しD I

【ブロック別・特徴的なコメント】

産 業	概 況
北海道	<ul style="list-style-type: none"> 仕入価格が上昇するも、販売価格への転嫁は小幅にとどまっており、収益が悪化していることから、一層の経費節減が必要（水産食料品製造業） 家電エコポイントの縮小により、売上が前年に比べ4割も減少（商店街） オーストラリアでの洪水や鳥インフルエンザの影響で、牛肉および鶏肉の仕入価格が上昇（酒場、ビアホール）
東北	<ul style="list-style-type: none"> 受注の増加により工場の稼働率が上昇するも、取引先から加工賃の値下げ要請があり、収益改善につながらない（織物外衣製造業） 大雪の影響で来客数が激減し、売上が落ち込んでいる（商店街） 輸出関連企業を中心に工場を設備更新する動きが出ており、自社の受注増につながっている（一般土木建築工事業）
北陸信越	<ul style="list-style-type: none"> 公共工事の発注は出ているが、案件が小規模のため、採算が厳しい（一般土木建築工事業） 大豆の仕入価格が15%上昇するも販売価格に転嫁できず、業況が悪化しているため、事業の縮小を考えざるを得ない（その他の食料品製造業） 取引先企業が生産の海外移転を進めており、受注環境が厳しくなっている（金属加工機械製造業）
関東	<ul style="list-style-type: none"> 糸の仕入価格が上昇しているうえ、品不足の影響で入荷が遅れており、注文に対応できない（ニット・シャツ製造業） 中国をはじめアジア諸国向けの輸出は、当面好調を維持できる見通し（建設・鉱山機械製造業） 物産展の開催により関連商品の売上は好調も、衣料品や外商の売上は厳しく前年を下回っている（百貨店）
東海	<ul style="list-style-type: none"> 中国での人手不足を背景に、生産拠点を国内に戻す動きが出ており、受注の回復につながっている（織物業） 受注はピーク時の7割程度にとどまり好転の兆しがない中、今後仕入価格の上昇が予想されることから、先行きが不安（鉄素形材製造業） 店舗間の価格競争が一層激化し、売上が伸び悩んでいる（総合スーパー）
近畿	<ul style="list-style-type: none"> 国内での売上は低迷も、中国向けの輸出が堅調（繊維機械製造業） 3月は家電エコポイント終了を前にした駆け込み需要が期待されるものの、薄型テレビの販売単価は低下しており、前年並みの売上確保は難しい（機械器具小売業） 住宅関連の経済対策の効果により、住宅を新築する動きが出ていることから、生活雑貨の売上が伸びている（総合スーパー）
中国	<ul style="list-style-type: none"> 民間工事の減少が続いているうえ、公共工事でも耐震工事の発注が少しある以外は全く案件がない状況（建築工事業） 鳥インフルエンザの影響で鶏卵の仕入価格が上昇し、採算が悪化（パン・菓子製造業） 家電エコポイントの縮小により、12月以降売上が低迷（その他の小売業）
四国	<ul style="list-style-type: none"> 現在は受注があるものの、3月以降については受注を全く確保できていない（建築工事業） 建設関連機械では受注が持ち直しつつあるものの、業界内の価格競争が激しく、先行きは不透明（一般産業用機械・装置製造業） じゃがいもをはじめ野菜類の仕入価格が高止まりしている（その他の一般飲食店）
九州	<ul style="list-style-type: none"> 日本企業が中国で生産した価格の安い製品が逆輸入されており、売上に悪影響が及んでいる（金属加工機械製造業） 新幹線の全線開業により来訪者が増加し、消費の活性化につながることを期待（商店街） 新燃岳の噴火による観光客の減少を懸念（その他の一般飲食店）